

## 安全データシート

作成日 2010年3月15日

改訂日 2024年12月10日

## 1. 化学品等及び会社情報

|              |                                   |
|--------------|-----------------------------------|
| 化学品の名称       | 安息香酸 (Benzoic Acid)               |
| 供給者の会社名称     | アーク株式会社                           |
| 住所           | 大阪市中央区安土町3-5-13<br>本町ガーデンシティテラス3階 |
| 電話番号         | 06-6563-7710                      |
| FAX番号        | 06-6563-7720                      |
| 推奨用途及び使用上の制限 | 防腐剤、アニリン染料原料、食品添加物(香料)、医薬         |

## 2. 危険有害性の要約

GHS分類 GHS JIS Z 7252, 7253:2019 使用

|           |   |
|-----------|---|
| 物理化学的危険性  | 該当する区分なし  |
| 健康に対する有害性 | 眼に対する重篤な損傷 区分1<br>／眼刺激性<br>生殖毒性 区分2<br>特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分2(上気道) |
| 環境に対する有害性 | 水生環境有害性 短期(急性) 区分3  |

GHSラベル要素  
絵表示注意喚起語  
危険有害性情報

危険

重篤な目の損傷  
生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い  
長期にわたる、または反復暴露による臓器(上部気道)の障害のおそれ  
水生生物に有害

注意書き  
安全対策

使用前に取扱説明書を入手すること。  
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。  
熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。-禁煙。  
容器を密閉しておくこと。  
容器を接地すること、アースをとること。  
防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。  
火花を発生させない工具を使用すること。  
静電気放電に対する予防措置を講ずること。  
粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。  
取扱後は手などをよく洗うこと。  
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。  
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。  
環境への放出を避けること。  
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

**応急措置**

皮膚に付着した場合：多量の水で洗うこと。  
 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

直ちに医師に連絡すること。

飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。

口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診断、手当てを受けること。

火災の場合には、火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火すること。

**保管**

涼しいところに置くこと。

容器を密閉しておくこと。

施錠して保管すること。

**廃棄**

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。

**他の危険有害性**

知見なし

**3. 組成及び成分情報****単一製品・混合物の区別**

化学名又は一般名

別名

濃度又は濃度範囲

分子式(分子量)

化学特性(示性式又は構造式)

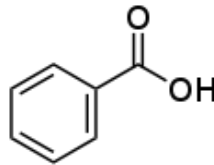
単一製品

安息香酸

フェニルカルボン酸、ベンゼンカルボン酸

≥ 99.0 %

C<sub>6</sub>H<sub>5</sub>CO<sub>2</sub>H(99.17)



CAS番号

官報公示整理番号(化審法)

65-85-0

化審法:(3)-1397、安衛法:公表化学物質

**4. 応急措置****吸入した場合**

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

直ちに医師に連絡すること。

**皮膚に付着した場合**

多量の水と石けんで洗うこと。

皮膚(又は髪)に付着した場合：汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。

直ちに医師に連絡すること。

**眼に入った場合**

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

直ちに医師に連絡すること。

**飲み込んだ場合**

直ちに医師に連絡すること。

口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

**応急措置をする者の保護**

データなし。

**医師に対する特別な注意事項**

データなし。

**5. 火災時の措置****消火剤**

水の噴霧、泡消火剤、粉末、炭酸ガス、二酸化炭素

**使ってはならない消火剤**

情報なし

|                                       |  |
|---------------------------------------|--|
| <b>特有の危険有害性</b>                       | 火災時に刺激性もしくは有害なガスを放出することがある。  |
| <b>特有の消火方法</b>                        | 消火作業は、風上から行う。<br>周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。<br>火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。<br>関係者以外は安全な場所に退去させる。<br>消火するために粉末消火薬剤、泡消火薬剤、二酸化炭素、砂を使用すること。<br>水を噴霧して容器類を冷却する。   |
| <b>消火を行う者の保護</b>                      | 消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を着用する。  |
| <b>6. 漏出時の措置</b>                      |  |
| <b>人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置</b>           | 作業には、必ず保護具(手袋・眼鏡・マスクなど)を着用する。<br>多量の場合、人を安全な場所に退避させる。<br>必要に応じた換気を確保する。  |
| <b>環境に対する注意事項<br/>封じ込め及び浄化の方法及び機材</b> | 漏出物を河川や下水に直接流してはいけない。<br>掃き集めて容器に回収する。<br>湿らせてもよい場合は粉じんを避けるために湿らせてから掃き入れる。<br>残留分を多量の水で洗い流す。   |
| <b>7. 取扱い及び保管上の注意</b>                 |  |
| <b>取扱い 技術的対策</b>                      | 適切な排気を行う。  |
| <b>安全取扱い注意事項</b>                      | 使用前に取扱説明書を入手すること。<br>全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。<br>火気厳禁<br>熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。-禁煙。<br>容器を密閉しておくこと。<br>容器を接地すること、アースをとること。<br>防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。<br>火花を発生させない工具を使用すること。<br>静電気放電に対する予防措置を講ずること。<br>粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。<br>あらゆる接触を避ける。<br>取扱後は手などをよく洗うこと。<br>この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。<br>屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。<br>環境への放出を避けること。<br>保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。 |
| <b>衛生対策</b>                           | 換気、局所排気、または呼吸用保護具。<br>顔面シールド、または呼吸用保護具と眼用保護具の併用。<br>取扱い後は手などをよく洗うこと。   |

|                |                          |  |
|----------------|--------------------------|--|
| 保管             | 安全な保管条件                  | 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。<br>容器を密閉しておくこと。<br>施錠して保管すること。<br>火気厳禁                   |
| 8. ばく露防止及び保護措置 |                          |  |
| 管理指標           |                          | 未設定  |
| 設備対策           |                          | 排気／換気設備を設ける。<br>洗眼設備を設ける。<br>手洗い、洗顔設備を設ける。   |
| 保護具            | 呼吸用保護具<br>手の保護具<br>眼の保護具 | 呼吸用保護具を着用すること。<br>保護手袋、保護衣を着用すること。<br>保護眼鏡、保護面を着用すること。<br>顔面シールド、または呼吸用保護具と眼用保護具の併用。 |
|                | 皮膚及び身体の保護具               | 保護衣を着用すること。  |
| 9. 物理的及び化学的性質  |                          |  |
| 物理的状态          | 形状<br>色<br>臭い<br>pH      | 結晶または粉末<br>白色<br>特有臭<br>水溶液は弱酸性。   |
| 融点・凝固点         |                          | 122.4℃   |
| 沸点、初留点及び沸騰範囲   |                          | 249.2℃   |
| 引火点            |                          | データなし。   |
| 燃焼性(固体、ガス)     |                          | 可燃性  |
| 蒸気圧            |                          | 0.1 Pa(25℃)  |
| 蒸気密度           |                          | 4.2 (空気= 1)  |
| 比重(相対密度)       |                          | 1.32(20℃)  |
| 溶解度            |                          | 水に対する溶解度: 0.29g/100ml(20℃)   |
| n-オクタノール／水分配係数 |                          | 1.87   |
| 自然発火温度         |                          | データなし。   |
| 分解温度           |                          | データなし。   |
| 粘度(粘性率)        |                          | データなし。   |
| 10. 安定性及び反応性   |                          |  |
| 反応性            |                          | 通常の使用、保管及び輸送条件下では安定である。  |
| 安定性            |                          | 通常の条件下で安定。   |
| 危険有害反応可能性      |                          | 爆発性の粉塵－空気混合物を形成するおそれがある。<br>強酸化剤と激しく反応し、火災の危険をもたらす。                                  |
| 避けるべき条件        |                          | 直射日光、熱、混触危険物質との接触  |
| 混触危険物質         |                          | 強酸、強塩基類、還元剤、強酸化剤   |
| 危険有害な分解生成物     |                          | 炭素酸化物  |
| 11. 有害性情報      |                          |  |
| 皮膚腐食性及び刺激性     |                          | 長時間の皮膚接触により一時的な刺激を起こすことがある。  |

|                     |   |
|---------------------|---|
| 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性   | SIDS(2004)において、テストガイドラインに準拠した試験で「重度の刺激性」又は「腐食性」と報告されていることから、区分1とした。   |
| 呼吸器感作性              | データなし。GHS分類:分類できない  |
| 皮膚感作性               | データなし。GHS分類:分類できない  |
| 生殖細胞変異原性            | データなし。GHS分類:分類できない  |
| 発がん性                | EPAでグループD(IRIS(1991))のため、分類できないとした。   |
| 生殖毒性                | 生殖能又は胎児への悪影響の恐れがあり、区分2とした。  |
| 特定標的臓器毒性(反復ばく露)     | 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器(上部気道)の障害の恐れがあり、区分2(上部気道)とした。  |
| 誤えん有害性              | データなし。GHS分類:分類できない  |
| 12. 環境影響情報          |   |
| 生態毒性 水生環境有害性 短期(急性) | 魚類(ブルーギル)の96時間LC50 = 44.6mg/L (SIDS,2004)から、区分3とした。   |
| 水生環境有害性 長期(慢性)      | 信頼性のある慢性毒性データが得られていない。急速分解性があり(2週間でのBOD分解度=85%(既存点検,1979))、急性毒性は区分3であるが、生物濃縮性が低いと推測される(LogP=1.88(sids,2004))ことから、区分に該当しないとした。 |
| 土壤中への移動性            | データなし   |
| オゾン層への有害性           | データなし   |
| 13. 廃棄上の注意          |   |
| 残余廃棄物               | 廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。<br>内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。                                    |
| 汚染容器及び包装            | 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。<br>空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。   |
| 14. 輸送上の注意          |   |
| 国際規制                |   |
| 国連番号                | 該当しない   |
| 国連分類                | 該当しない   |
| 国連番号                | 該当しない   |
| 15. 適用法令            |   |
| 労働安全衛生法             | 皮膚等障害化学物質等(安息香酸)<br>(R7年4月1日より)<br>名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項)(安息香酸)<br>名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2第1項)(安息香酸)                   |
| 16. その他の情報          |   |
| 参考文献                | 各データ毎に記載した。   |